

年 組 名前：



アユの稚魚を水槽に移す富士川  
漁業協同組合の組合員  
＝甲斐市牛久



QRコード  
から動画を  
見られます

6月のアユ釣解禁に向け、甲斐市牛久の県水産技術センターで3日、アユの稚魚の出荷が始まった。  
同日は富士川漁業協同組合（望月啓自組合長）に約400キ（約8万匹）を出荷。飼育池から専用のホースで稚魚を水槽に移し、センターの職員が網ですくって計量。漁協の組合員がトラックの荷台に積んだ水槽に移して運んだ。身延町の常葉川などに放流するという。  
センターでは年間約170万匹のアユの稚魚を生産。昨年10月に採卵した稚魚は、体長約6〜7センチに成長している

## アユ稚魚出荷始まる

県水産技術センター 初日は8万匹

という。作業は5月末まで続く見通しで、県内8漁協に出荷する。

飼育を担当したセンターの谷沢弘将研究員（38）は「今年も順調に育った。解禁後、川が釣り人でにぎわうとうれしい」と話した。

〈木場菜摘〉

（2025 年 4 月 4 日付 山梨日日新聞 23 面）

【 記事を先生や家族に読んでもらうか、  
自分で読んだ後に、答えてください 】

問1

4月3日に、アユの稚魚の出荷が始まった場所を教えてください。

.....市.....の.....

問2

センターは、年間で約何匹のアユの稚魚を生産し、何カ所に出荷していますか。

生産数：.....出荷場所数：.....

問3

飼育した担当者は、どのような気持ちで、アユの稚魚を出荷していますか。

.....